



第6回奈良女子大学文学部欧米言語文化学会講演会（言語学5）



言語使用の三層モデルと日英語のデフォルト志向性（の解除） —英語の非定形節に見られる主体化現象を中心に—

講師 廣瀬 幸生（筑波大学）

日時：2015年12月12日（土）15:00-17:30

会場：奈良女子大学 文学系 S棟 1F S128 教室

(<http://www.nara-wu.ac.jp/map/accessmap.html>)

共催：奈良女子大学文学部欧米言語文化学会

科研費基盤研究（C）「日英語の意味・語用論的志向性に関する記述的・理論的研究」

問合先：今野弘章（konno@cc.nara-wu.ac.jp）

奈良女子大学文学部欧米言語文化学会では、この12月に筑波大学の廣瀬幸生先生を講師にお迎えし、下記の内容でご講演頂きます。どなたにもご参加頂けますので、初冬の奈良へ是非お運び下さい。皆様のご参加をお待ち申し上げます。



◆講演要旨◆

日英語に関する認知言語学的研究では、日本語は英語に比べて主体化の度合いが強い、つまり、主体が状況に自己を投入する度合いの強い言語であるということが明らかにされてきたが、これは、日本語を英語の定形節と比べた際の特徴である。英語でも、非定形節を観察すると、日本語と同じような主体化現象が見られる。本発表では、まずこの事実を観察し、その後、日本語との比較から見た英語の定形節と非定形節の主体化に関する違いを説明する理論的枠組みとして「言語使用の三層モデル」(Hirose 2013, 2015)を導入し、三層モデルにおける日英語の「デフォルト志向性とその解除」(Konno 2015)という観点から議論を行い、この現象をより広い視野から捉える。

